

*太陽塔望遠鏡地下分光室に太陽スペクトルを展示

アーカイブ室新聞第373号(2010年9月14日)に「乗鞍コロナ観測所から25cmコロナグラフを搬出」という記事を書いた。国立天文台の乗鞍コロナ観測所は2010年3月末で閉所された。閉所される観測所の機器類はそのままにするということを知り、筆者は25cmコロナグラフを復元可能な状態に分解し三鷹キャンパスに持ち帰った。現在は分解された状態で天文機器資料館の床に分散して展示してある。乗鞍から25cmコロナグラフを持ち帰る際、保存しようと思うものは何でも持ち帰った。その中にカラーの長い展示用の太陽スペクトルがあった。これを今まで天文機器資料館の階下の収納スペースに置いてあったが、太陽塔望遠鏡の分光器室を分光器資料館にしてあり、今や立派な博物館状態である。そこにこのスペクトルを展示しようと思いついた。さっそく分光器資料館に持ち込み、スペクトル撮影用のフィルムホルダーの前に展示した(写真1)。

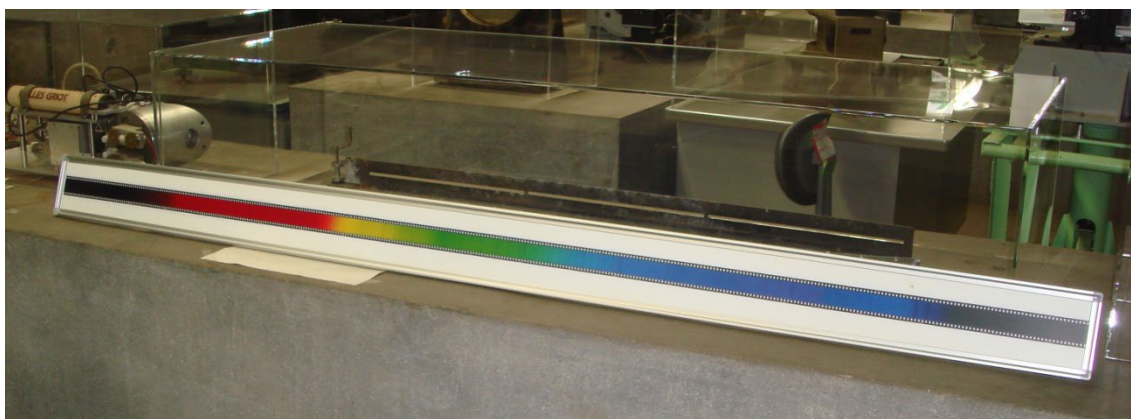


写真1 太陽塔望遠鏡分光室に展示した太陽スペクトル

この太陽スペクトルは35mmカラーフィルムに撮影されたもので長さは1.7m以上と非常に長いものである。

現在、色収差補正用フィルムホルダーを使って太陽スペクトルを撮影された牧田貢京都大学名誉教授から譲られたスペクトルを展示するためのケースを製作中で近日中には納入される。牧田さんは、太陽塔望遠鏡を使っていた太陽物理が専門の方で、筆者が昭和41年(1966年)三鷹に異動し、最初に手掛けた太陽塔望遠鏡の手ほどきをしてくれた先生である。牧田さんは太陽塔望遠鏡の後継機である岡山天体物理観測所の65cmクーデ型太陽望遠鏡でマグネトグラフの観測に専念され、塔望遠鏡の役目が終わった。その後、牧田さんは京都大学教授に赴任された。

今回展示したものは、おそらく乗鞍コロナ観測所で撮影されたスペクトルであろうと思うが、来歴は知らないが見事なスペクトルである。

展示した際、部分的にスペクトルを撮影したので紹介する（写真2）。

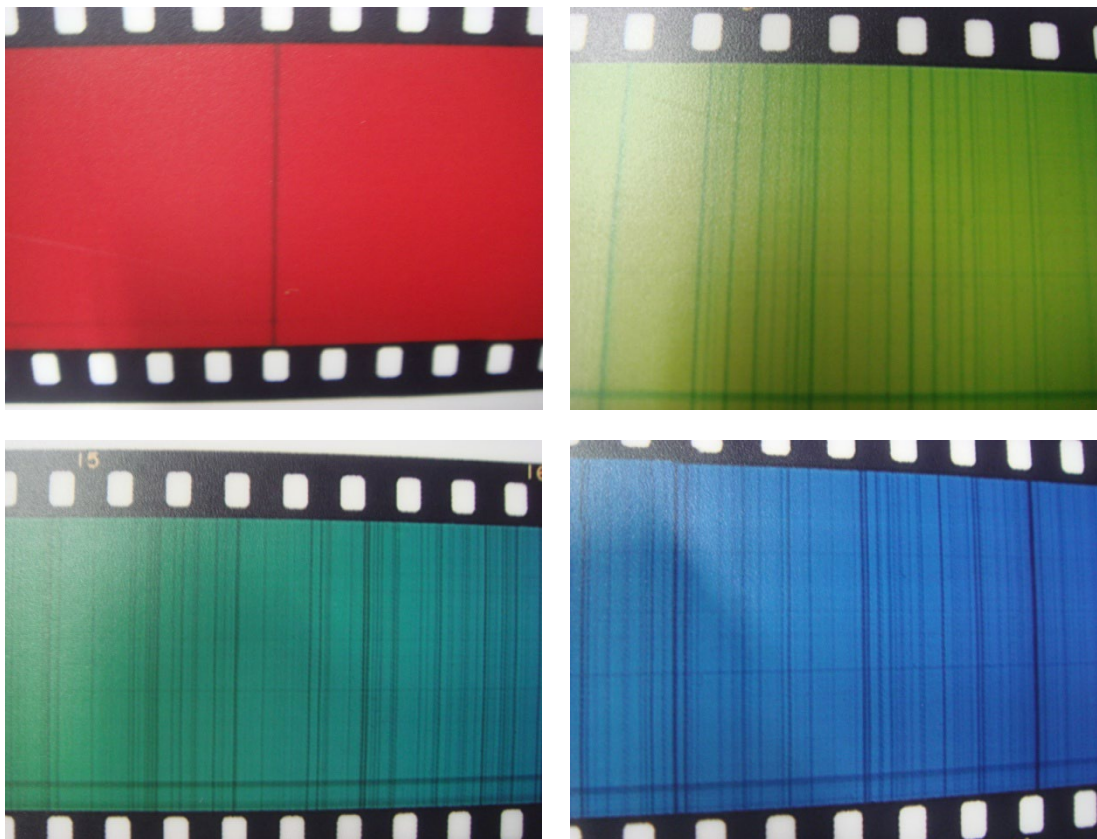


写真2

これらのスペクトル線の同定をまだ行っていない。乗鞍で展示していた際もスペクトル線の表示はなかったようである。このスペクトル線の同定は容易ではないが主な線については表示したいと思っている。

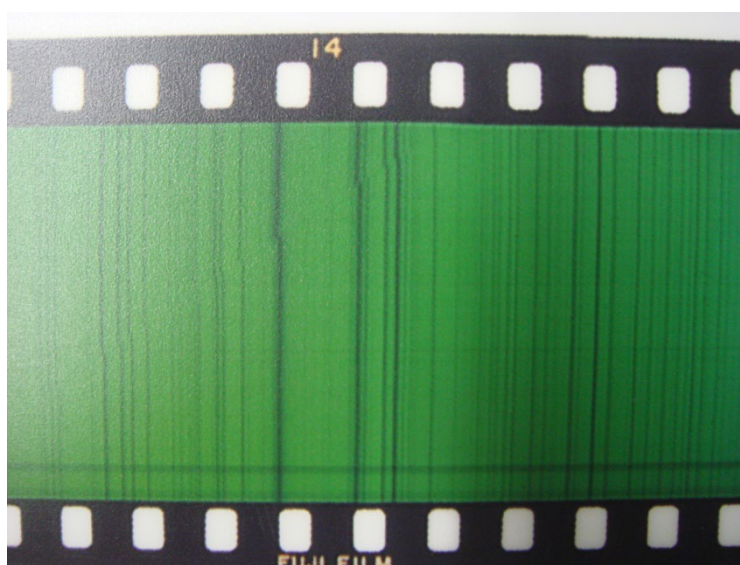


写真3 なぜか曲がっているスペクトル

また写真 3 のようにスペクトルがある波長域では折れ曲がっている領域がある。これは理解しにくい現象である。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp